



統合が生み出す 知のデザイン: 混合研究法の 基礎と応用

立命館大学政策科学部
稲葉光行

inabam@sps.ritsumeai.ac.jp

講師(稲葉光行)紹介

AI(第2世代)の研究(1980年代～1990年代後半)

- 会話から知識獲得やゴール発見をするAI研究
- AIの限界を実感し、人間理解のアプローチを模索

人間理解への転換(1990年代後半～現在)

- 人間の認知は、状況・環境との相互作用によって構築されるものという考え(社会構築主義)を知る
- M. Cole(文化心理学)やE. Hutchins(分散認知)の研究所で学ぶ
- 文化・歴史活動理論や分散認知の探究開始

混合研究法との出会い(2005頃～現在)

- J. Creswellとの出会いを契機に、Mixed Methods Research(MMR)のコミュニティへ
- 国際混合研究法学会設立大会に参加、
- 日本混合研究法学会創設メンバー
- MMRで「状況の中での人間理解」の研究継続

本講演のトピック

第1部 混合研究法の基礎



第2部 混合型分析



第3部 グラウンデッド・テキスト マイニング・アプローチ (GTxA)



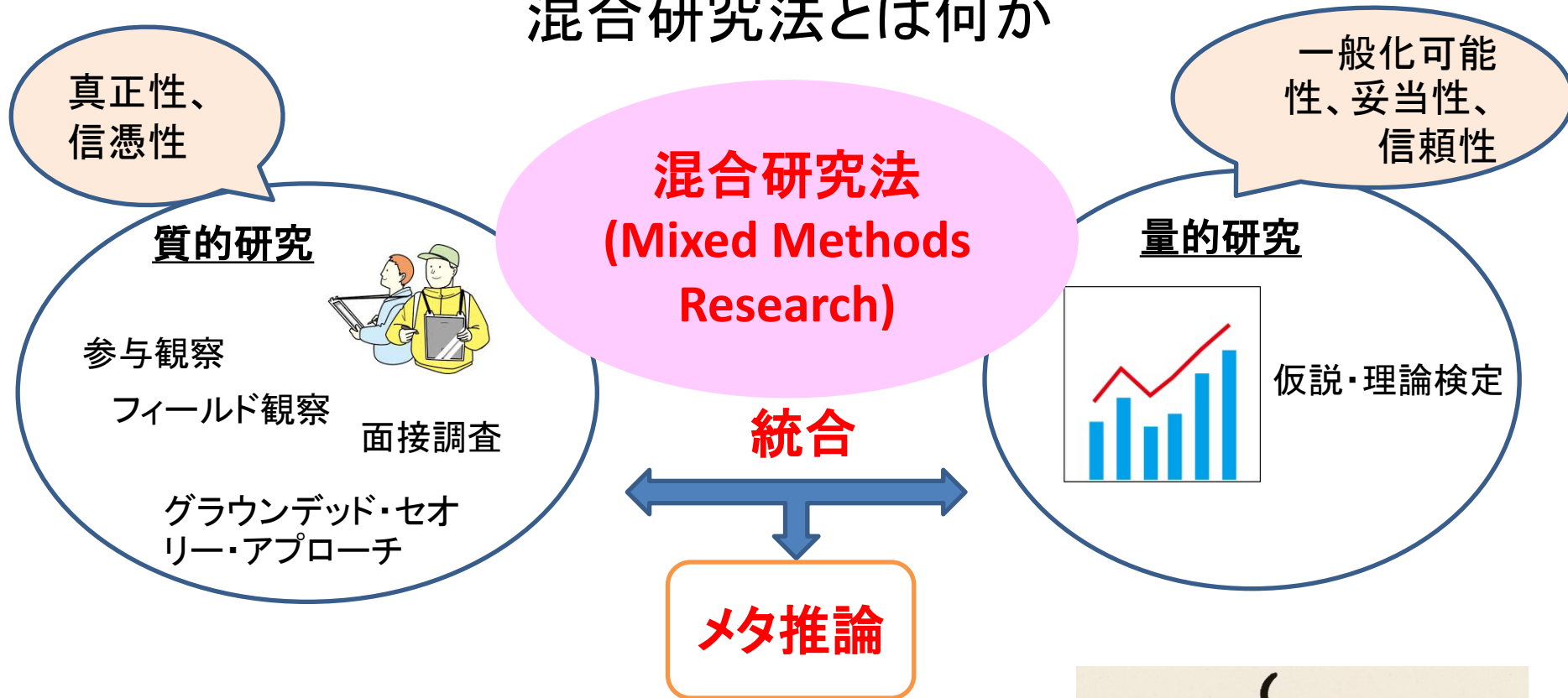
第4部 おわりに



第1部

混合研究法の基礎

混合研究法とは何か



「1つの調査もしくは研究プログラムにおいて、研究者が、**質的・量的**という両方のアプローチや手法を用いてデータを収集・分析し、結果を統合して、推論を導きだす研究」

参考: Tashakkori & Creswell (2007)



混合研究法の哲学／パラダイム

量的研究が
一番です。

混ぜる
な危険



量的手法
ポスト実証主義、
演繹的論理、
検証的研究、
仮説－演繹的手法

質的研究が
一番です。

混ぜる
な危険



質的手法
構築主義、
帰納的論理、
探索的研究、
グラウンデッド・セオリー

リサーチ・クエスチョンが
全てを決めるのです。



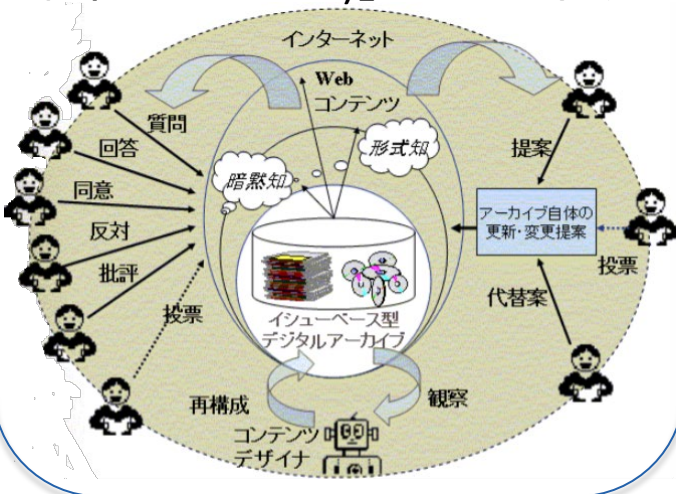
混合研究法
プラグマティズム、
演繹的かつ帰納的論理、
質と量におけるデータ
収集と分析の統合

参考：Teddle & Tashakkori, 2009 / 土屋・八田・藤田訳, 2017, p.18

参考研究:CSCL環境のユーザ(学習者)の理解

参考:稲葉(2007)

協働的な教材拡張を支援する
「蘊蓄(UNCHIKU)」システム開発



【目的/RQ】

「蘊蓄」は学生の批判的思考
向上に寄与できるのでは？

RQ1:学生は蘊蓄をどう使っているか

RQ2:学生の批判的思考が高まるか

RQ3: 蘊蓄が学習においてどのよう
な意味を持つか

2006年の講義で運用

量的研究(n=27)

プレ・ポストテストに
よる批判的思考態
度(CCTDI)のt検定

【デザイン】

質的研究(n=9)

半構造化面接で
蘊蓄の使い方につ
いて質問

“他者の投稿に追記す
るために、辞書や参考
書をよく調べるよう
になった”

“他者と自分の理解を
比較し、自分の理解に
自信を深めた”



【統合】

書き込み前の情報探索と他者の意見参照
→探求心と自信向上

→それらの相乗効果によって、全体として
批判的思考態度が育まれた可能性

混合研究法による 研究実施のキーポイント

混合研究法を用いた研究(混合型研究)のキーポイントとして以下の3つが必要

1. 「目的・リサーチクエスチョン」の明確化
2. 「デザイン(基本、応用)」の選択／決定
3. 「統合」の分析・報告(メタ推論の導出)

混合研究法のポイント(1)

【研究目的】



研究目的:

混合研究法を使う意義を示すことが重要

- 量的・質的研究の統合的理解を目指す。
- 現象の複雑性や多面的理解に焦点を当てる。
- 実践的示唆や理論的貢献を示す。

研究目的例:

- 組織におけるコンピュータセキュリティ対策を対象に、職員の行動データ(量的)と、セキュリティへの意識や職場文化に関するインタビュー(質的)を統合的に分析する。
- それによって、技術的対策と人間的要因の相互作用を明らかにする。
- 最終的に、組織における効果的なセキュリティ文化の醸成に向けた実践的示唆を得ることを目的とする。

混合研究法のポイント(1)

【リサーチクエスチョン】

- 量的RQと質的RQを区別して立てる。
 - RQ1(量的): 傾向・関係・差異を問う。
 - RQ2(質的): 体験・意味・プロセスを問う。
- 統合的RQ(RQ3)を設ける。
 - 量的・質的結果の統合から得られる知見を問う。

RQの例



職員のセキュリティ行動に
どのような要因がどれだけ
影響しているか


職員はセキュリティに関して
どのように理解しているか

組織全体として、セキュリティに関する
どのような課題が考えられるか


混合研究法のポイント(2) 【デザイン】

～基本デザイン～

収斂 (Convergent)

 質：収集・分析
(質的)




 量：収集・分析
(量的)


 解釈 (INTERPRET)

 結合 (MERGE)

→ 説明的順次 (Explanatory)

 量：本調査 →
傾向をつかむ




 質：追跡調査で
深掘り




 解釈 (INTERPRET)

 連結 (CONNECT)

→ 探索的順次 (Exploratory)


 質：探索・概念
を作る



 量：テスト・
一般化



 解釈 (INTERPRET)

 積み上げ (BUILD)

基本デザインの例

テーマ：組織のセキュリティ文化形成



収斂デザイン(Convergent Design)

目的：行動ログと職員の語りを統合、技術的対策と人間的要因の関係理解。

量的：研修履歴・遵守率・ログ分析

質的：インタビューによって現場の声を収集

統合：行動と語りの**結合** → セキュリティ文化に関わるメカニズムを可視化



説明的順次デザイン(Explanatory Sequential Design)

目的：行動差を生む心理・文化的要因を明らかにする。

Step1：（量）アンケート調査（知識・行動頻度）

Step2：（質）高行動群／中行動群／低行動群へのインタビュー

統合：統計＋語りを**連結** → 遵守を支える動機のメカニズムを説明



探索的順次デザイン(Exploratory Sequential Design)

目的：語りから要素を抽出し、セキュリティ文化成熟度尺度を開発。

Step1：（質）職員へのインタビューをもとに、セキュリティ文化の要素抽出

Step2：（量）セキュリティ文化成熟度尺度に必要な項目の整理

統合：質的要素の**積み上げ** → セキュリティ文化成熟度尺度の開発

混合研究法のポイント(2) 【デザイン】

～応用デザイン～



研究課題 (RQ)

→ 基本デザインを選ぶ

→ 課題に合わせてデザインを組み合わせる



基本デザイン(Core Design)



収斂(Convergent)

💬 + 📊 を同時並行→結合



→ 💬 説明的順次(Explanatory Seq.)
量→質で「なぜ」を説明



→ 📊 探索的順次(Exploratory Seq.)
質→量で検証・一般化



応用デザイン(Complex Design)



事例研究(Case Study)



介入研究(Intervention)



多段階評価(Multiphase Evaluation)



縦断(Longitudinal Mixed Methods)



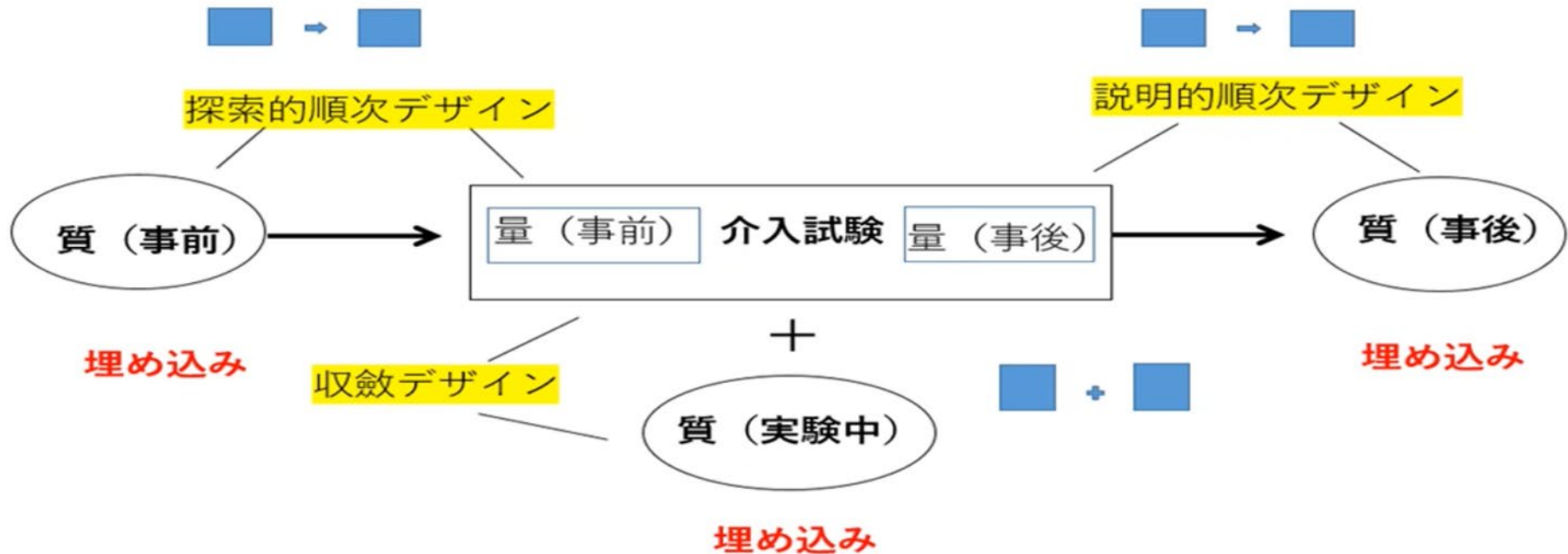
参加型協働(CBPR) など

手続きダイアグラム

どのような「デザイン」で
研究を実施したかを視覚的に表現する方法

介入デザイン(Intervention)の手続きダイアグラム

qual→QUAN (qual)→qual



参考 : Creswell, J. W. (2015). *A concise introduction to mixed methods research* (1st ed.). Sage. (クレスウェル, J. W. 抱井尚子訳(2017). 早わかり混合研究法 ナカニシヤ出版) をもとに、訳者が作成(抱井, 2025).

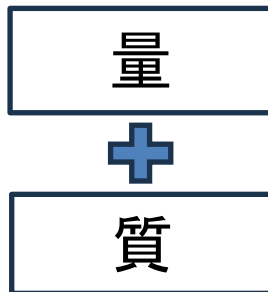
混合研究法のポイント(3) 【統合】



「デザイン」毎に、「統合」のパターンが類型化されている

基本デザイン

結合
(merging)



収斂



メタ
推論

連結
(connecting)



説明的順次



メタ
推論

積み上げ
(building)



探索的順次



メタ
推論

応用デザイン

埋め込み
(embedding)



OR



メタ
推論

ジョイントディスプレイ

統合のための分析・報告のための道具として、あるいは研究計画の段階に、質的／量的分析の結果を併置・視覚化する「ジョイントディスプレイ」が用いられる



量的データ



質的データ

メタ推論

高行動群(n=18)
セキュリティ行動スコア
平均=4.5/5(n=15)

「チーム全体で情報共有ができています」
「上司が率先してセキュリティ研修を受けている」
(テーマ:組織支援・模範行動・信頼)

✓ 高行動群では、リーダーシップと信頼文化が安全行動を促進。技術よりも人間的要因(模範・協働)が鍵。

中行動群(n=10)
スコア平均=3.2/5

「ルールは理解しているが、実践は面倒」
「監査の時だけ気をつけている」
(テーマ:形式的遵守・モチベーション低下)

✚ 中行動群では、形式的遵守傾向がみられ、モチベーション維持や意識変容が課題。

低行動群(n=6)
スコア平均=2.1/5

「忙しすぎてセキュリティまで手が回らない」
「システムが使いにくい」
(テーマ:負担・利便性・疲弊)

⚠ 低行動群では、業務負荷とシステムの使いづらさが主因。技術的・人的両面の改善が必要。

💡 総合的には、行動の差異は知識量よりも組織文化と業務環境の影響が大きい。→「技術的対策+人的支援+組織文化形成」の三層が有効。

混合研究法による 研究実施のキーポイント(おさらい)

混合研究法を用いた研究(混合型研究)のキーポイントとして以下の3つが必要

1. 「目的・リサーチクエスチョン」の明確化
2. 「デザイン(基本、応用)」の選択／決定
3. 「統合」の分析・報告(メタ推論の導出)

第2部

混合型分析

混合型分析(Mixed Analysis)

- 近年ビッグデータ解析など、質的・量的データが混在した(区別されない)ハイブリッド・データの扱いが増えている。
- 混合研究法でも、1つのデータソースを質的・量的という2種類のアプローチで分析する方法が提案されている。

→データソースにかかわらず、
異なるデータ分析アプローチの統合を目指すことから、
混合型分析(Mixed Analysis)と呼ばれている。

代表的な混合型分析

グラウンデッド・テキストマイニング・アプローチ(GTxA)

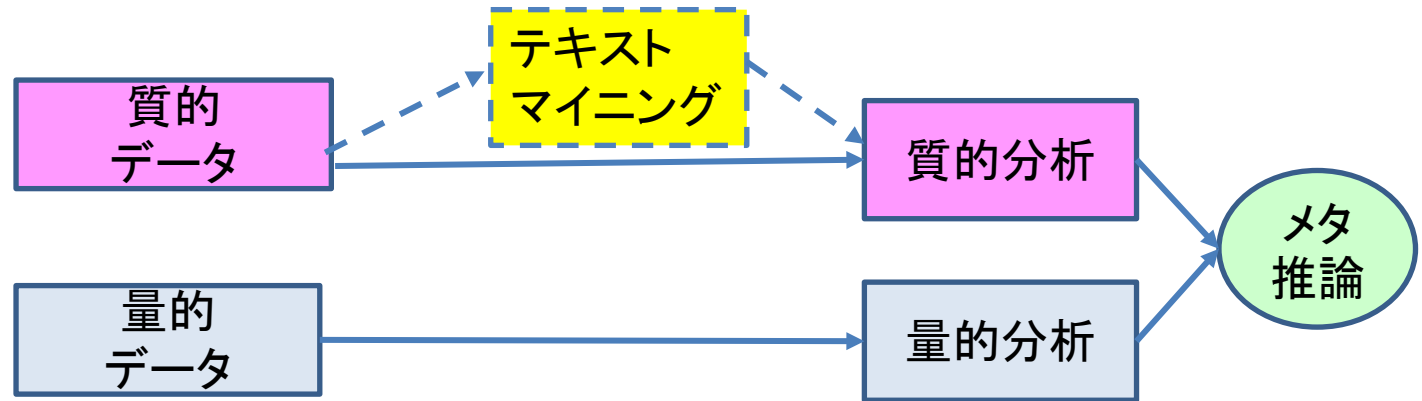
1つのデータソース(テキストデータ)に対して、質的分析と、それを量化した分析を行い、それらを統合する

混合型社会ネットワーク分析(MMSNA)

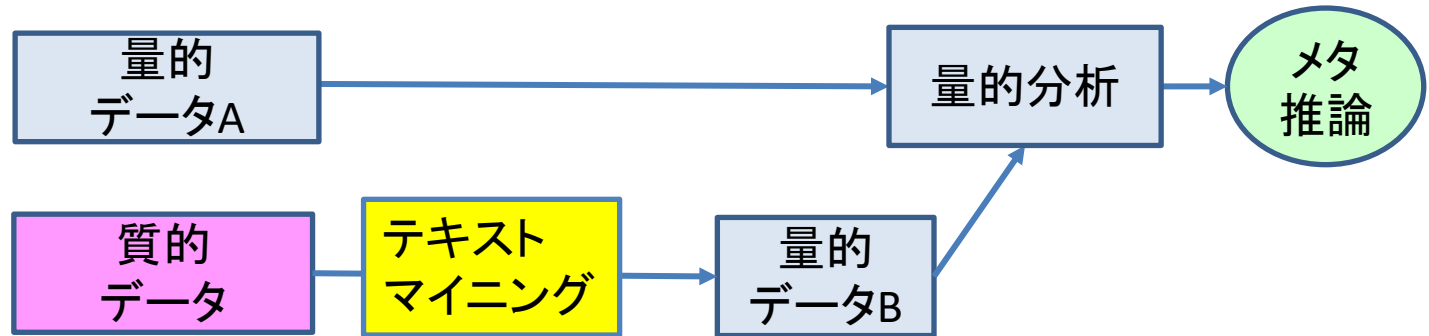
人のつながりに関して収集した1つのデータソースに対して、数学的アプローチで分析し、構成員の役割や派閥などの質的な特性を見い出す

混合研究法におけるテキストマイニング

質的分析の 補助手段 (データソース=2)

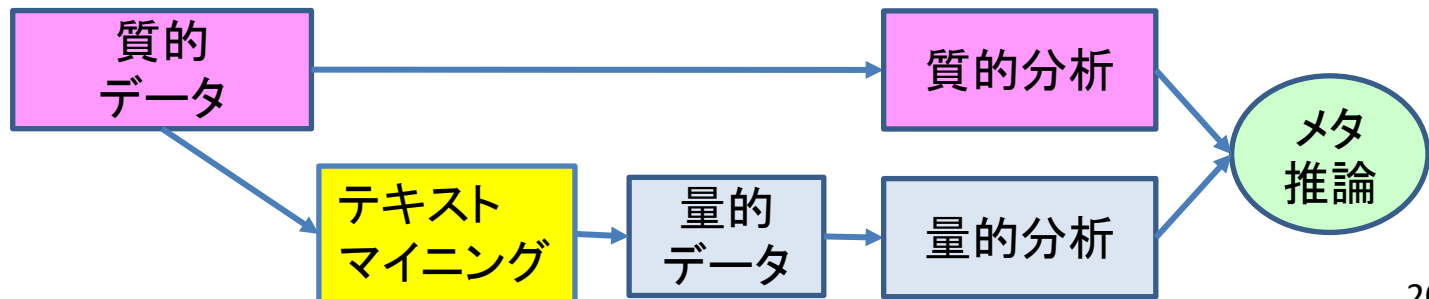


データ変換 (データソース=2)



混合型分析

データ変換 (データソース=1)



社会ネットワーク分析(SNA: Social Network Analysis)とは

行為者を取り囲む関係構造の視点から、
人々のつながりの理解を目指す手法

①対象・目的の設定

対象とするつながりや現象を設定

②データ収集

アンケートやSNSなどからデータを収集

③ネットワークの視覚化

得られたデータをソシオグラムとして表現

④ネットワーク分析

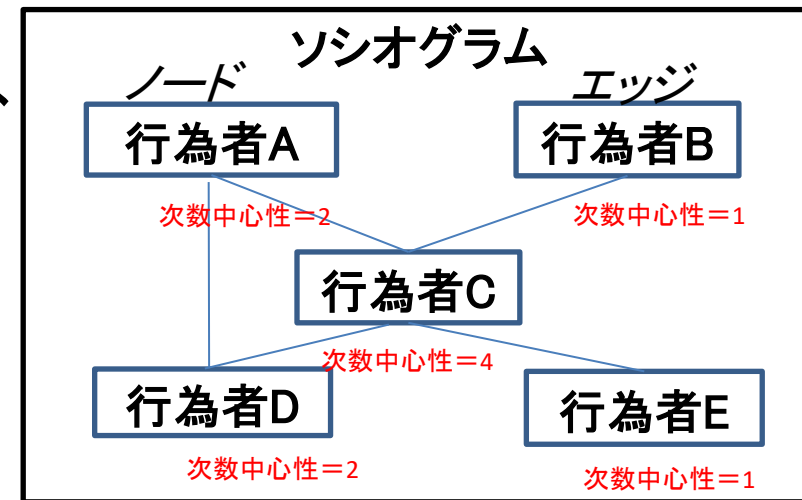
中心性、密度、クラスタリング係数などを算出

⑤評価基準の設定

行為者の状態に関する指標を設定

⑥解釈・考察

評価基準に基づき関係性を解釈・考察



評価基準:

エッジ数が多い(=ネットワーク分析で次数中心性が高い)人が影響力が大きい

解釈・考察:

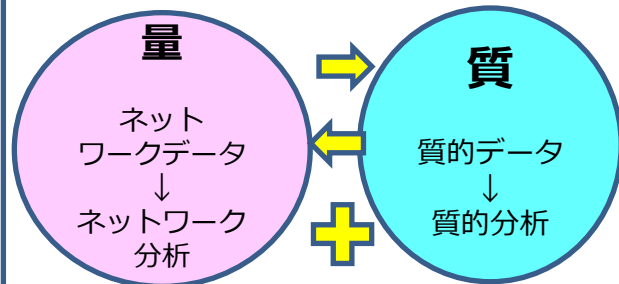
行為者Cが最も大きな影響力を持つ

混合型社会ネットワーク分析(MMSNA)

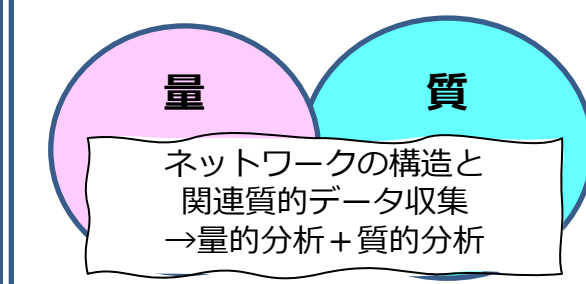
混合型分析

混合型分析

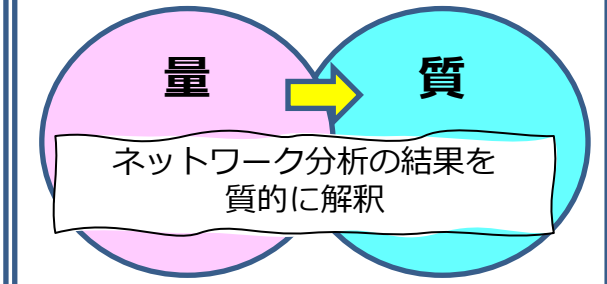
量・質ストランド分離型



単一データソース型



探索型（融合型）



例: QUANとして
ネットワーク分析を実施。



QUALとして、半構造化面接
などから質的データを収集し
分析する。



両者の結果を統合する。

例: SNSに関するハイブリッド型の
データがあると想定

SNSの関係構造から
ソシオグラムを作成し、
量的ネットワーク分析を実施。



上と同じデータソースから
質的データ(文章等)を抽出し、
分析を行う。



両者の結果を統合する。

例: ネットワーク構造やその
分析結果を、質的な視点から
解釈する。



社会現象としての意味づけや、
新たな知見の探索を行う。

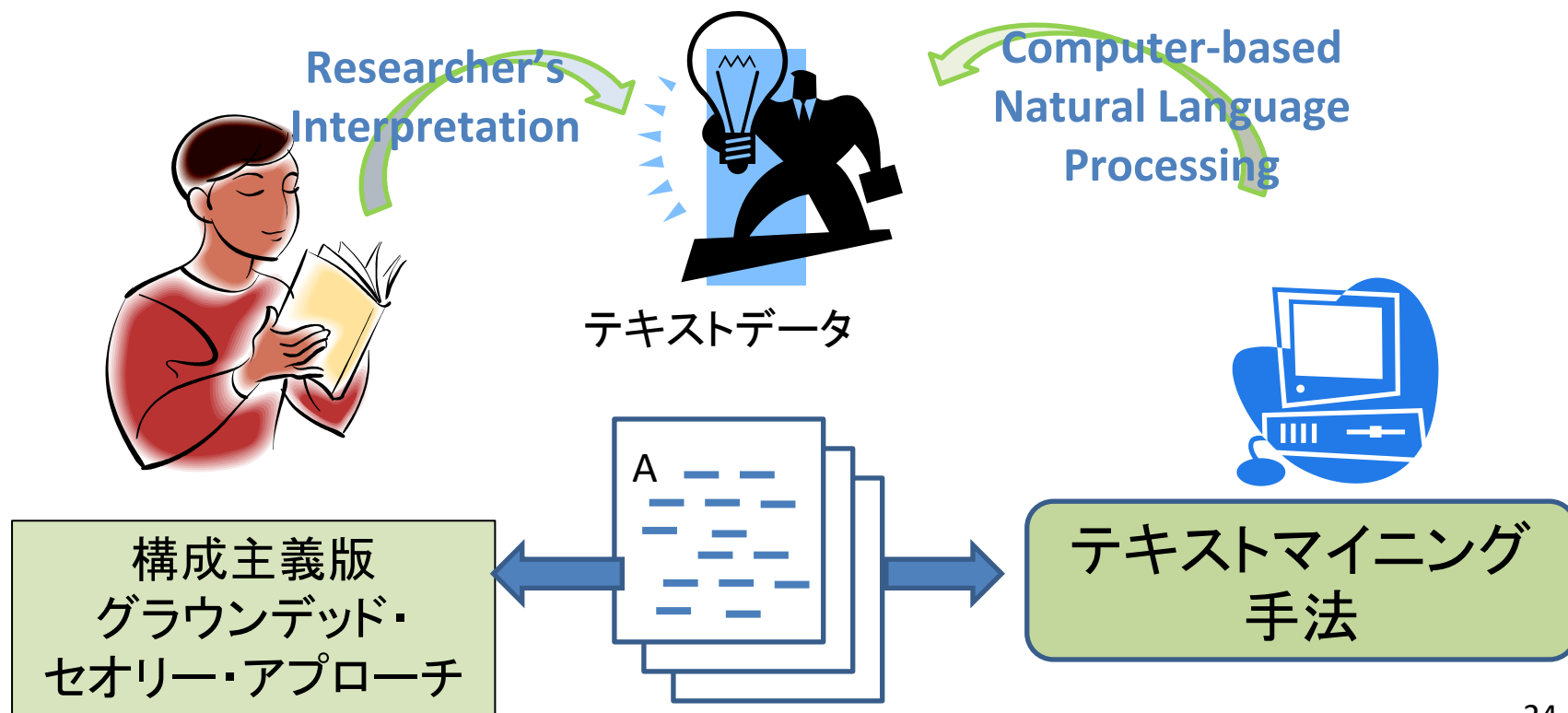
Yousefi Nooraie et al. (2020)を元に
作成(稲葉, 2025b).

第3部

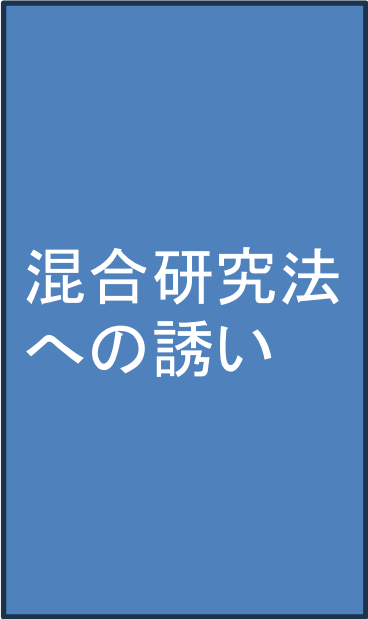
グラウンデッド・テキストマイニング アプローチ(GTxA)

グラウンデッドなテキストマイニング アプローチ(GTxA)とは？

- 質的データ分析とテキストマイニングを組み合わせることで、研究者の感性・独創性と、コンピュータによる客観的な分析を統合した知見を得る手法
- 伝統的な質的研究と比べて、**透明性**が確保される。
- 1つのデータソースを想定している「**混合型分析**」の一つ。




GTxAが紹介されている書籍



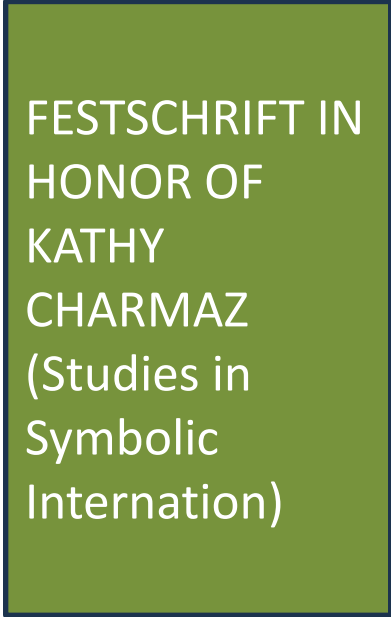
混合研究法 への誘い

日本混合研究法学会
(監修), 抱井尚子&成
田慶一(編). (2016)
遠見書房/



The Sage Handbook of Current Developments in Grounded Theory

A. Bryant and K.
Charmaz (Eds.).
(2019). Sage.



FESTSCHRIFT IN HONOR OF KATHY CHARMAZ (Studies in Symbolic Internation)

A. Bryant and A. E.
Clarke (Eds.) (2022)



The Sage Handbook of Mixed Methods Research Design

C. Poth (Ed.).
(2023). Sage.



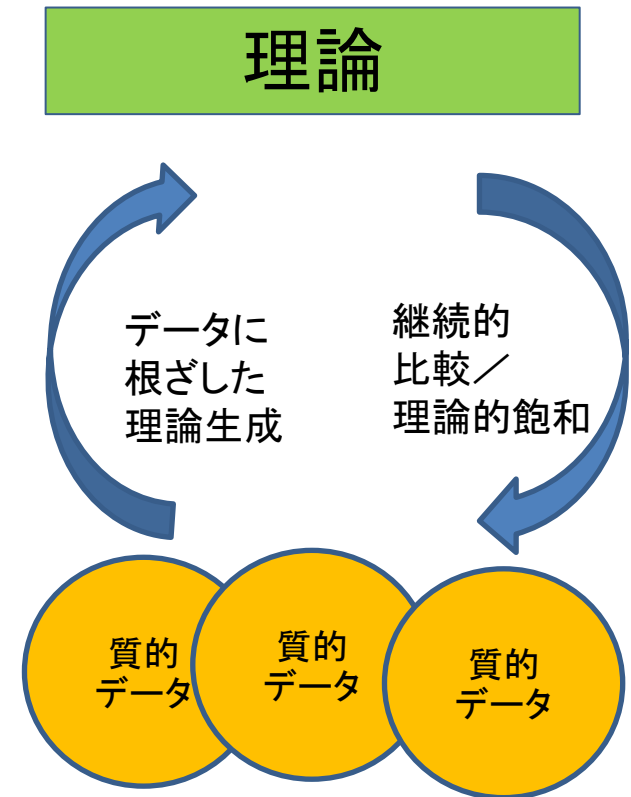
情報技術を用いた
新しいタイプの
混合研究法として
GTxAの章が採用された

グラウンデッド・セオリー(アプローチ)の源流

- 理論を見出すための質的データ分析手法として、Glaser & Strauss (1967) や Strauss & Corbin (1998)が提唱。
- 「データに基づいた(grounded) 分析を進め、データから概念を抽出し、概念同士の関係づけによって研究領域に密着した理論を生成しようとする研究方法」(戈木, 2006)。



客観主義に近い
ゴールを持つ分析手法



構成主義版グラウンデッド・セオリーアプローチ(C-GTA)

構成主義

- 「知識」は、特定の文脈での社会的な相互作用から作られる、という立場。



構成主義版グラウンデッド・セオリー

- 研究者とデータとの相互作用から理論が構築されるという「構成主義」の視点を重視。
- 研究者自身の感性や創造性を活かすことで、状況・時間・場所に根ざした理論構築が可能。

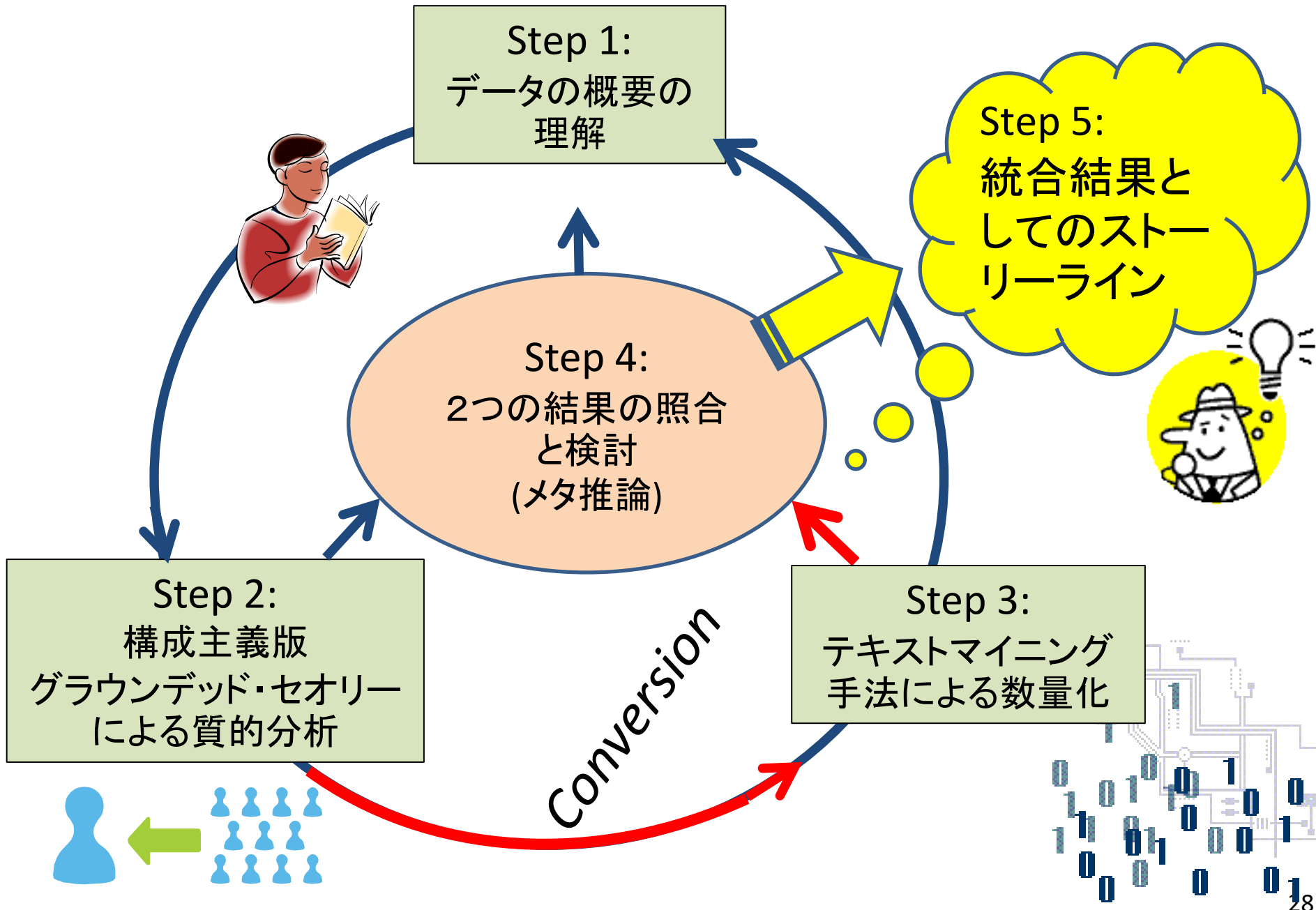
Charmaz(2014)



コンピュータを用いた
客観的な分析結果と
視点が大きくことなることから、
互いの補完に意味がある

GTxAで
採用

GTxAの分析プロセス



GTxAを用いた分析事例：

～家族が認知症と診断された介護者の 心情に関するインタビューの分析～

注意：

- 本講演では、実際の場面を想定して生成AIが出力したテキストを講演者が編集した、**架空の逐語録**を用い、その分析例を紹介します。
- ここで用いる逐語録は、教育目的で作成した架空の例であり、現実の診療録や調査データを転記したものではありません。また、特定の人物や症例を直接示すものではありません。

データ収集

※以下のインタビューを実施し、逐語録を作成したと想定

- インタビュー
 - 対象者：6名（男性3名、女性3名）、年齢：50～60歳代
- 質問項目：
 - Q1：家族が認知症と診断された時のお気持ちは？
 - Q2：その後心境に何か変化はありましたか？
 - Q3：心境の変化があるまで、どのくらい時間がかかりましたか？

Step 1:

データの概要の理解

データの概要の理解(1)

通読による概観獲得



全体として
どんな話題や
意見が多いか

質問毎にどう
回答が違うか

誰がどのような
語りをしているか

データの概要の理解(2)

生成AIを使った概観獲得

プロンプト: 次の会話を、3つの箇条書きの形で要約しなさい。「医者から妻が認知症だと聞いた時、まずはびっくりしました。何と言っているかわからない。…」

もちろん、喜んでお手伝いします。以下に、あなたが共有してくれた会話を3つの箇条書きで要約しますね。

1. 妻の認知症の診断に対する衝撃と不安:

- 医者から妻の認知症だと聞いた時、驚きと戸惑いを感じました。
- ネットで調査しても情報が多すぎて不安でしたが、一緒に乗り越えようと思います。

2. アルツハイマー型認知症の現実とショック:

- 病院で「アルツハイマー型の認知症です」と言われ、ショックを受けました。
- 治療が難しい現実を受け入れるのは厳しいですが、妻と共に前向きに歩いていこうと思います。

3. 大切な時間と思い出:

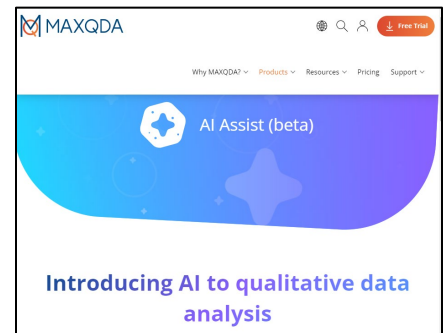
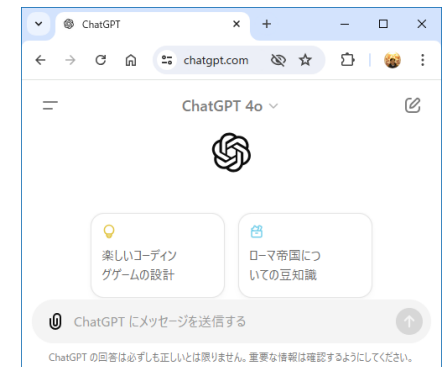
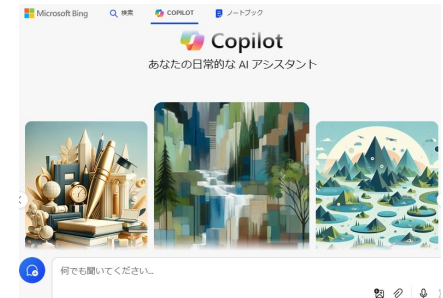
- 妻と過ごす時間が貴重であり、昔の思い出を共有することが楽しみです。
- 小さな幸せを見つけながら、一緒に進んでいきたいと考えています。

また、実母や夫についても同様に、思い出や共感を持ちながら進んでいくことが大切ですね。明るく前向きに、一緒に頑張りましょう。 [1] [2]

[1]: この要約は、あなたが共有した会話の主要なポイントを抽出しています。 [2]: この要約は、アルツハイマー型認知症に直面する人々に共通する感情と経験を反映しています。: この要約は、家族やパートナーとの絆を大切にすることの重要性を強調しています。: この要約は、明るく前向きな姿勢を持つことが大切であることを示しています。

AIの限界への注意:

シンボル・グラウンディング問題、ハルシネーション



Step 2:

C-GTAによる質的データ分析

C-GTAによる質的データ分析

①ステップ1を参考に、重要と思われる単語（認知、感情、行為等）をピックアップ

初期コード：単語毎

②見つけた単語をそのまま書き出す

初期コード：文章毎

③見つけた単語を元に、行をまとめる

焦点化コード

④焦点化すべき概念として抽象化

質問	話者	性別	被介護者		初期コード：単語毎	初期コード：文章事	焦点化コード
Q1	調査者	空欄	空欄	家族 認知症と診断された時は、どのようなお気持ちでしたか？			
Q1	介護者1	男性	妻	妻が認知症って言われてから、もう、頭が真っ白になっちゃって。最初のうちはショックで、落ち込んだり、怒りっぽくなったり、気分がコロコロ変わって、現実から逃げたかったです。何と言っていいかわからない。こんなこと、想像もしていなかったから、受け止めるのがとても難しい。正直、ショックでしたね。家に帰って、ネットで認知症について色々調べることになりました。でも、情報が多すぎて、どれが本当に役立つのかわからないほどの不安を感じました。「どうしよう」と何度も頭をよぎりました。仕事との両立、これからの生活、どうやって乗り越えていけばいいのか、と焦りました。	ショック、落ち込んだ、現実から逃げたかった、受け止める、難しい、ネット、調べる、生きられない、不安、どうしよう、仕事、焦り	驚きとショックで受け止めるのが難しかった。家に帰ってネットで情報を調べたが、不安が増した。仕事との両立や今後の生活に焦りを感じた。	受容不安 逃避感情 情報探索
Q1	介護者			先生から妻の認知症の診断を聞いた時、診察室で時間が止まったような心のどこかから逃げようとして、治らん、さつかった、啞然、ショック、一緒に前を向いて	ショック、現実から逃げようとして、治らん、さつかった、啞然、ショック、一緒に前を向いて	ショックを受け、現実を受け入れられなかった。現実から逃げようとした。最終的に現実を受け止めざるを得ないと感じた。	受容不安 逃避感情

※架空の逐語録

Step 3:
テキストマイニング手法による数量化

GTxAで重要なテキストマイニングの要素技術 ～オートコーディング～

分割文字列#1

... もし彼女が病気のこ
とを知ったら、すごく悲
しんでしまって ...

分割文字列#2

... 残りの人生を充実し
たものにしてみらうため
にも、私は告知しないと
思います ...

分割文字列#3

... 私の祖母は80歳ぐら
いで、大分歳なんです ...

コーディング・ルール

見つかった
コード

パタン:

(“人生” and “充実”)

コード:

【人生の充実】

【人生の充実】

マッチした文字列

... 残りの人生を充実し
たものにしてみらうため
にも、私は告知しないと
思います ...

C-GTAによる質的データ分析

質問	話者	性別	被介護者	語り	初期コード：単語毎	初期コード：文章事	焦点化コード
Q1	調査者	空欄	空欄	家族が認知症と診断された時は、どのようなお気持ちでしたか？			
Q1	介護者1	男性	妻	<p>妻が認知症って言われてから、もう、頭が真っ白になっちゃって。最初のうちはショックで、落ち込んだり、怒りっぽくなったり、気分がコロコロ変わって、現実から逃げたかったです。何と言ってもいいかわからない。こんなこと、想像もしていなかったから、受け止めるのがとても難しい。正直、ショックでしたね。家に帰って、ネットで認知症について色々調べることになりました。でも、情報が多すぎて、どれが本当に役立つのかわからないほどの不安を感じました。「どうしよう」と何度も頭をよぎりました。仕事との両立、これからの生活、どうやって乗り越えていけばいいのか、と焦りました。</p> <p>先生から妻の認知症の診断を聞いた時、診察室で時間が止まったような</p>	<p>ショック、落ち込んだ、現実から逃げたかった、受け止める、難しい、ネット、調べる、生きられない、不安、どうしよう、仕事、焦り</p>	<p>驚きとショックで受け止めるのが難しかった。家に帰ってネットで情報を調べたが、不安が増した。仕事との両立や今後の生活に焦りを感じた。</p>	<p>受容不安 逃避感情 情報探索</p>
Q1	介護者2			<p>のどこショック、現実から逃げよう、治らん、きつかった、啞然、ショック、一瞬間に前を向いて</p> <p>らん」という現実が重くのしかかってきて、心がきつかったです。残念ながら、これが現実だと受け止めざるを得ないと思いました。</p>	<p>ショック、現実から逃げよう、治らん、きつかった、啞然、ショック、一瞬間に前を向いて</p>	<p>ショックを受け、現実を受け入れられなかった。現実から逃げようとした。最終的に現実を受け止めざるを得ないと感じた。</p>	<p>受容不安 逃避感情</p>

※架空の逐語録

(次のステップで)これらの組み合わせを
コーディング・ルールとして定義

焦点化コード
(先頭に*を書く)

コーディング・ルールの作成

*前向受容

乗り越える or 前向き or 豊か or 最善 or 受け入れる

単語毎コード

(一般的には、or で単語を区切る)

*受容不安

びっくり or ショック or 'どうしようか' or 悲しい or 焦り or 失われる or 残念

*情報探索

ネット or テレビ or 調べる

*逃避行動

逃げる

*共助関係

仕事 or 脇役 or 外 or 参加 or '2人でがんばって'

テキストファイルを作成で
きるプログラムで編集

オートコーディングによる視覚化例 ～質・量のジョイントディスプレイ～

焦点化
コード
(認知・感情・行動)
(質)

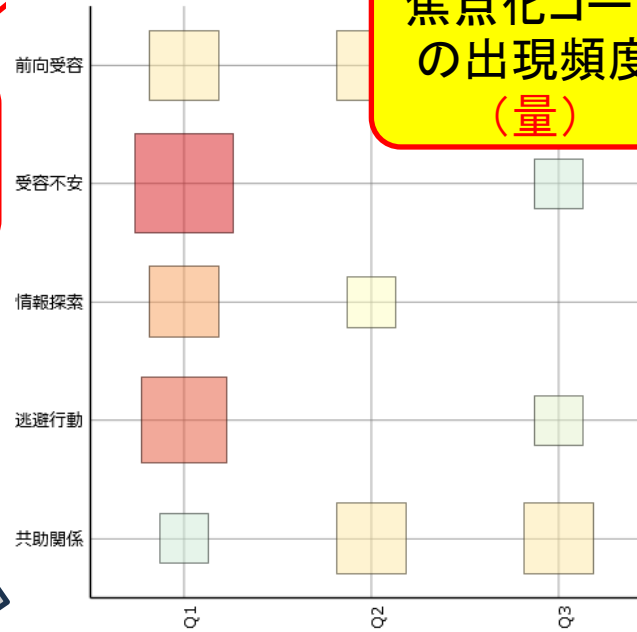


Step 4:

質・量のジョイントディスプレイに基づく 統合と検討(メタ推論)

焦点化コード
(質)

焦点化コード
の出現頻度
(量)



原文参照
(質)

質問=時間
経過(質)

統計分析の
結果
(量)

これらを統合してはじめて見えるメカニズムを創出

メタ推論

Q1:認知症と診断された直後

- 「受容不安」や「逃避行動」の心情を強く持つ人が多い。
- 「情報探索」を行い、「前向受容」や「共助関係」を持つ人もいる。

Q2:その後の変化

- 「受容不安」や「逃避行動」の心情が減る場合が多い。
- 「前向受容」が維持され、「共助関係」の気持ちが強くなる。

Q3:一点時間の経過後

- 「受容不安」や「逃避行動」の心情は弱いが残っている。
- 「前向受容」や「共助関係」の気持ちが維持されていく。

新たなRQ

- 介護者の性別がどのような影響を持つのか
- そこに社会文化的な要因はあるか
- 病気に関する情報源や情報スキルがどのような差を生み出すか
- テレビ、ネット、書籍などの違いがあるのか
 - ITリテラシーや情報探索スキルも影響するのか

Step 5:
統合結果としてのストーリーライン作成

GTxAに基づくストーリーライン化

家族が認知症と診断された後の心情とその変化

1. 初めて診断を受けた時の心情

- 家族が認知症と診断を受けた時点で、多くの家族は＜受入不安＞を感じる。具体的には、ショックを受け、頭が真っ白になり、現実を受け入れることが難しく感じる。
- さらに、現実から逃避したいという＜逃避感情＞を持つ人も出てくる。
- 中には、ネットで認知症に関する情報を調べたり、本を読んだりするなどの＜情報探索＞を行う人もいる。

2. 診断後の感情の変化

- 診断後も、落ち込みや辛さなど＜受入不安＞が続く人もいる。
- ＜情報探索＞によって得た情報、友達や家族の支え、あるいは自らの気づきによって＜前向受容＞に向かうことができる人もいる。

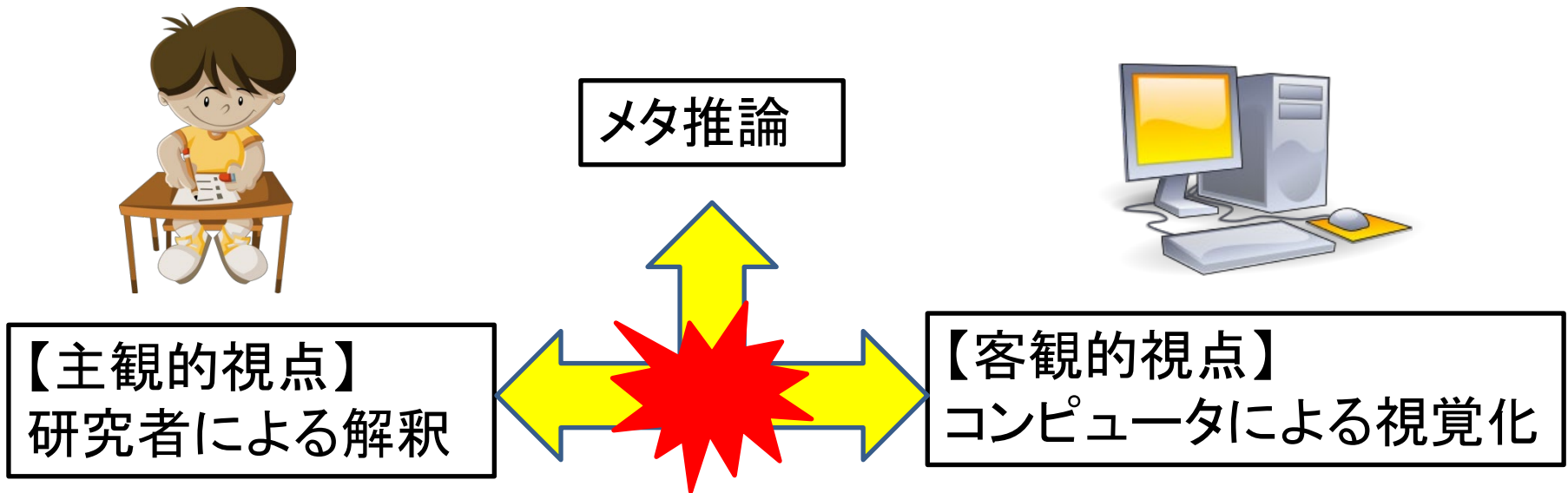
3. 対処法と心の変化

- ＜前向受容＞の段階に至る人は、そと家族や友人の支えや、一緒に過ごす時間の大切さを再認識し、小さな幸せを見つけることで気持ちを落ち着かせることができるといった変化が起きる。また、家族を支えるという自分の役割を認識し、ともに支え合うという＜共助関係＞という段階に至ることが、＜前向受容＞に大きな役割を果たしている可能性がある。

第3部 まとめ

グラウンデッド・テキストマイニングアプローチ(GTxA)

主観的視点と客観的視点の統合によって、
テキストに対してより深く理解し、
その結果を透明性がある形で示すことができる手法

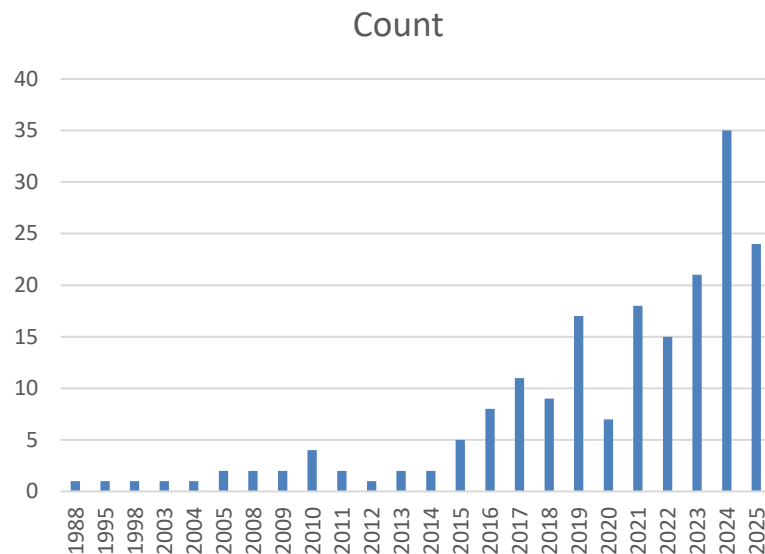


第4部

おわりに

セキュリティ研究と混合研究法

- セキュリティ研究でのMMRは、2015年以降急速に増えている。
- Abstractに出現する語句も、技術用語以外に、Learning, Education, Behavior, Organizations, Training, といった、ヒューマンファクターに関わる語が出ている。
- 人間が関わる複雑な現象であるセキュリティ研究は、混合研究法が有用であろう。



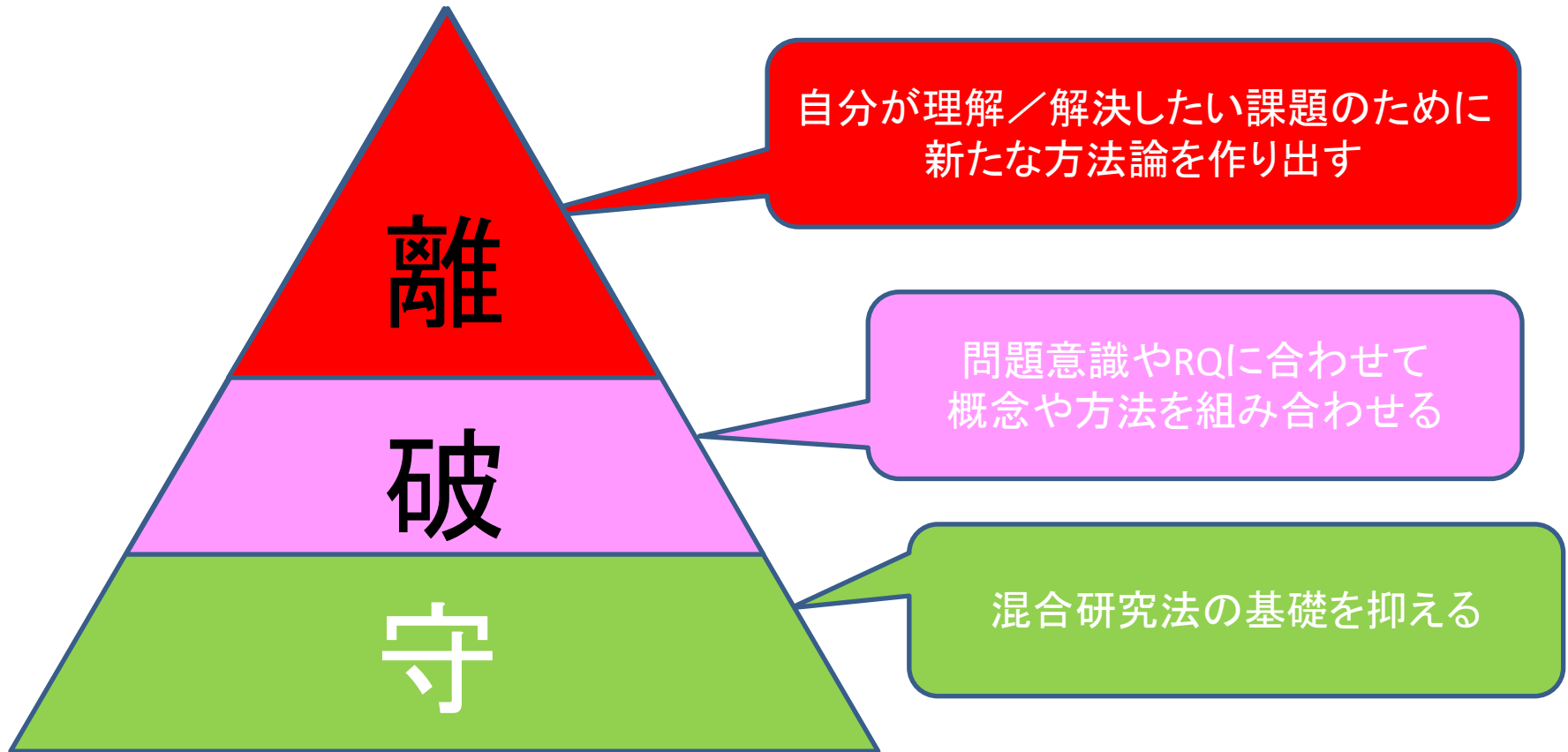
Web of Scienceの検索結果
「Cybersecurity AND “mixed methods”」



WoSの結果をもとに<http://www.wordclouds.com/>で生成

今後に期待すること

- セキュリティ研究での混合研究法適用においても、混合研究法の基礎を理解し、独自の組み合わせを試していくことが重要。
- セキュリティ研究独自の手法や知見が蓄積され、人間が関わる複雑な課題を理解・解決する方法論の進化に繋がることを期待する



参考：e-Learning: 看護研究者のための混合研究法

e-learning 開講のお知らせ

看護研究者のための混合研究法

Mixed Methods Research for Nursing Researchers

量的・質的データを統合する混合研究法を包括的に学ぶためのプログラムを開講します。研究のレベルアップにぜひご活用ください。

オンデマンドでレベルアップ!
FREE

こんな課題をお持ちの方に!

- ✓ 量的、質的研究のみでは解決しにくい研究テーマを検討している
- ✓ 混合研究法に興味があるが、どこから始めたら良いのかわからない
- ✓ 学生に混合研究法を紹介するために、使いやすい教材を探している

point 1

基礎、応用、発展レベルまで充実の動画コンテンツ



point 2

看護研究事例を用いた多様なデザイン紹介



point 3

国内外で活躍する講師陣の解説



point 4

オンデマンドで見たいチャプターをいつでも視聴できる!



ID登録・受講はこちらから>>>

2026年3月まで利用無料

<https://tlp.edulio.com/aoyama-elearning/members/add/>



プログラム構成

I. イントロダクション	看護学研究において混合研究法を使用する意義
II. 事始め	混合研究法の定義、歴史、パラダイム、研究倫理、評価基準
III. 基礎編(守)	リサーチクエストの策定、サンプリング、各種基本型デザイン、ジョイントディスプレイによるデータの統合
VI. 応用編(破)	統合の概念、事例研究、介入研究、多段階評価研究、縦断研究、ポジティブ・ディヴィアンス研究など
V. 重要ポイントの振り返り	II~IV.の復習
IV. 発展編(離)	最新動向: テキストマイニング、社会ネットワーク分析、PAC分析などの活用
VII. 海外のエキスパートより	海外のエキスパートによるミニ・レクチャー、メッセージ

学習の進め方



企画・コンテンツ提供者

亀井智子 (聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授)
野崎真奈美 (順天堂大学医療看護学部 教授)
眞壁幸子 (秋田大学大学院医学系研究科 教授)
福田美和子 (目白大学看護学部 教授)
大河原知嘉子 (東京医療保健大学千葉看護学部 講師)
河村洋子 (産業医科大学産業保健学部 教授)
八田太一 (静岡社会健康医学大学院大学 講師)
成田慶一 (京都大学医学研究科 客員研究員)
井上真智子 (浜松医科大学地域家庭医療講座 特任教授)
稲葉光行 (立命館大学政策科学部 教授)
田島千裕 (学習院女子大学国際文化交流学部 准教授)
高木亜希子 (青山学院大学教育人間科学部 教授)
阿部路子 (青山学院大学・浜松医科大学 研究員)

尾島俊之 (浜松医科大学健康社会医学講座 教授)
原田智世 (聖路加国際大学大学院看護学研究科 助教)
香曾我部琢 (宮城教育大学 教授)
廣瀬真理子 (関西学院大学 非常勤講師)
Pat Bazeley (Western Sydney University)
Elizabeth G. Creamer (Virginia Tech College)
John W. Creswell (University of Michigan)
Michael D. Feters (University of Michigan)
Donna M. Mertens (Gallaudet University)
理解度チェッククイズ監修: 光永悠彦
(名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授)
総監修: 抱井尚子
(青山学院大学国際政治経済学部 教授)

お問合せ先

eラーニングサービスデスク: 混合研究法教育開発センター 事務局
Email: MMR Nursing <nursingmmr@gmail.com>

主な参考文献／eラーニングコンテンツ

主な参考文献

- Charmaz, K. (2014). *Constructing Grounded Theory*. 2nd Ed. Sage. (シャーマズ, K. 岡部 大祐 (訳) (2020) グラウンデッド・セオリーの構築[第2版] ナカニシヤ出版.
- Creswell, J. W. (2015). *A concise introduction to mixed methods research* (1st ed.).Sage.(クレスウェル,J.W.抱井尚子訳(2017). 早わかり混合研究法ナカニシヤ出版)
- Glaser B. G. & Strauss A. (1967). *Discovery of Grounded Theory. Strategies for Qualitative Research*. Sociology Press.
- 樋口耕一. (2020). *社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】KH Coder オフィシャルブック*. ナカニシヤ出版.
- 樋口耕一,中村康則,&周景龍. (2022). *動かして学ぶ！ はじめてのテキストマイニング*. ナカニシヤ出版.
- 稲葉光行. (2007). CSCL 環境における協調的教材構築を通した大学生の批判的思考態度の促進に関する研究. *政策科学*, 14(3), 13-24.
- Inaba, M., & Kakai, H. (2019). Grounded Text Mining Approach: A Synergy between Grounded Theory and Text Mining, A. Bryant and K. Charmaz (Eds.), *The SAGE Handbook of Current Developments in Grounded Theory*. (pp. 332-351). Sage.
- Inaba, M., & Kakai, H. (2023). Grounded Text Mining Approach: An Integration Strategy of Grounded Theory and Textual Data Mining. C. Poth (ed.), *The SAGE Handbook of Mixed Methods Research Design*. Sage.
- Strauss, A. L. & Corbin, J. (1988). *Basics of Qualitative Research: Grounded Theory Procedures and Techniques*. 2nd edition. Sage.
- Tashakkori, A. & Creswell, J.W.(2007). Editorial: The New Era of Mixed Methods. *Journal of Mixed Methods Research*, 1(1), 3-7.
- Teddlie, C. & Tashakkori, A. (2009). Foundations of mixed methods research: Integrating quantitative and qualitative approaches in the social and behavioral sciences.Sage. (テドリー , C・タシャコリ , A. 土屋敦・八田太一・藤田みさお (訳) (2017) 混合研究法の基礎 西村書店)
- Yousefi Nooraie, R., Sale, J. E., Marin, A., & Ross, L. E. (2020). Social network analysis: An example of fusion between quantitative and qualitative methods. *Journal of Mixed Methods Research*, 14(1), 110-124.

主なeラーニングコンテンツ

- 八田太一(2025). IV-1. 混合研究法における統合 抱井尚子(監修). 看護研究者のための混合研究法. Retrieved Jun. 4, 2025 from <https://tlp.edulio.com/aoyama-elearning/members/add/>
- 稲葉光行 (2025a). VI-2. グラウンデッド・テキストマイニング・アプローチ 抱井尚子(監修). 看護研究者のための混合研究法. Retrieved Jun. 4, 2025 from <https://tlp.edulio.com/aoyama-elearning/members/add/>
- 稲葉光行 (2025b). VI-3. 混合型社会ネットワーク分析(MMSNA) 抱井尚子(監修). 看護研究者のための混合研究法. Retrieved Jun. 4, 2025 from <https://tlp.edulio.com/aoyama-elearning/members/add>
- 抱井尚子(2025). V-2. 混合研究法のデザイン 抱井尚子(監修). 看護研究者のための混合研究法. Retrieved Jun. 4, 2025 from <https://tlp.edulio.com/aoyama-elearning/members/add/>
- 大河原知賀子 (2025). VI-1. 混合型分析としてのテキストマイニングの活用 抱井尚子(監修). 看護研究者のための混合研究法. Retrieved Jun. 4, 2025 from <https://tlp.edulio.com/aoyama-elearning/members/add>